

あの遺跡は今! part12

ホンモノ/でまなぼう! 近江の歴史

平成23年2月20日(日)

- ⑨ 最新の成果がわかる ～整理調査成果報告～
”縄文人のくらし—出土品からみた縄文人の生と死—”
内容:草津市志那湖底遺跡、湖南市針氏城遺跡の成果報告
会場:博物館2階セミナールーム(事前申し込み不要)
時間:13時～15時(受付12時30分～)
- ⑨ ホンモノをみる ～出土品の展示解説～

- ⑨ ま近でみる ～整理作業の公開～
- ⑨ ホンモノ体験 ～整理作業の体験～
- ⑨ わたしだけのストラップ ～出土品レプリカ作成～
- ⑨ いくつかわかるかな ～展示品クイズラリー～

あの遺跡は今！Part12

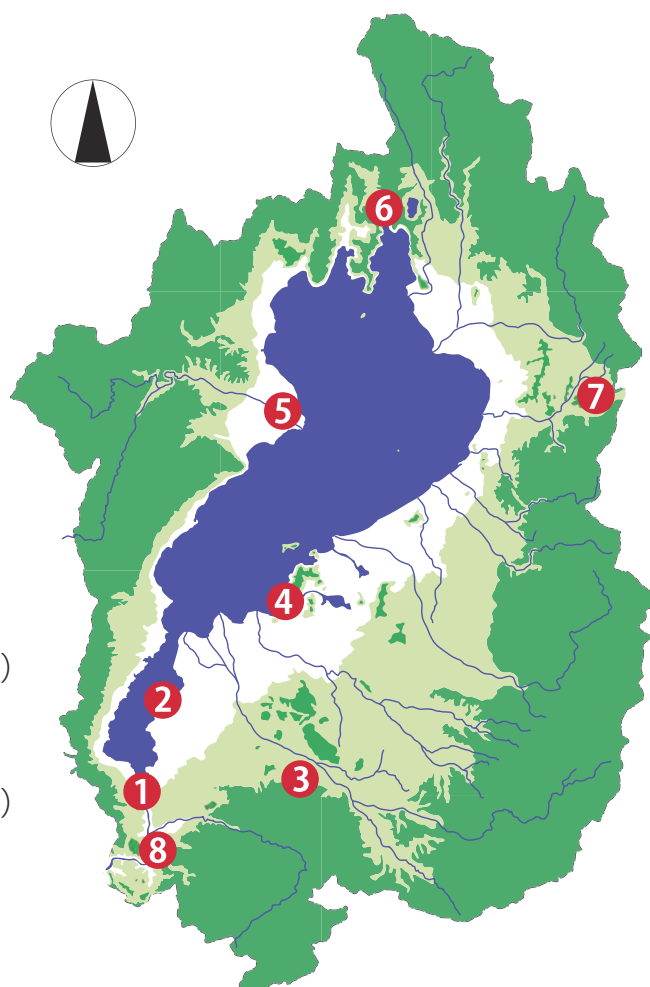
埋蔵文化財整理調査成果報告会 について

テレビや新聞などで毎日のように取り上げられている遺跡(埋蔵文化財)の発掘調査。財団法人滋賀県文化財保護協会では、発掘調査で得た情報を公開するために「現地説明会」を開催していますが、その後の整理調査のなかでも新たな発見があります。そこで、この成果をいち早く公開するためにこの催しを企画しました。

整理調査を通してわかった「あの遺跡」の「今」の情報を、6つのメニューでみなさんにお届けします。

この機会に埋蔵文化財の調査成果や出土品を間近で見学し体験していただくことで、より滋賀の歴史を体感し、文化財への親しみと理解を深めていただき、豊かな未来を創造していただければ幸いです。

- ① 粟津湖底遺跡(大津市)
- ② 志那湖底遺跡(草津市)
- ③ 針氏城遺跡(湖南市)
- ④ 長命寺湖底遺跡(近江八幡市)
- ⑤ 天神畑遺跡・上御殿遺跡(高島市)
- ⑥ 塩津港遺跡(長浜市)
- ⑦ 清滝寺遺跡・能仁寺遺跡(米原市)
- ⑧ 関津城遺跡(大津市)



出土品を展示する遺跡の位置

あゝの遺跡の“今”の情報を 6つのメニューでお届けします

最新の成果がわかる！

整理調査成果報告会

「縄文人のくらしー出土品からみた縄文人の生と死ー」と題して、草津市志那湖底遺跡と湖南市針氏城遺跡の調査成果を報告します。

◇13時～15時（受付12時30分～）

◇博物館2階セミナールームにて

ホンモノをみる！

出土品の展示解説

現在整理調査中の出土品を展示し、解説します。

◇主な遺跡

粟津湖底遺跡、志那湖底遺跡、針氏城遺跡、長命寺湖底遺跡、天神畑遺跡・上御殿遺跡、塩津港遺跡、清滝寺遺跡・能仁寺遺跡、関津城遺跡

ホンモノ体験！

整理作業の体験

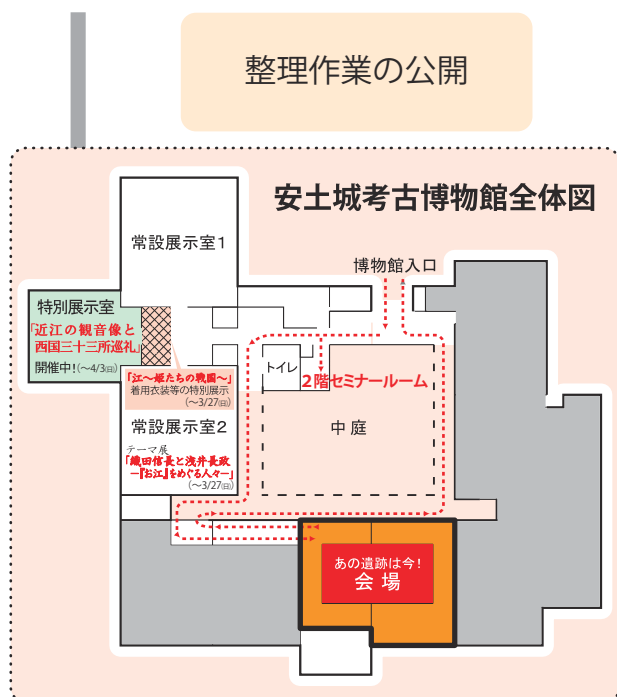
ホンモノの出土品にふれながら接合・注記・拓本などの整理作業を体験していただくことで、出土品の「みかた」がわかります。

「注記」と「拓本」作業の体験では、できあがった拓本をお持ち帰りいただけます。

受付（資料配布）

出土品の展示解説

整理作業の公開



展示品クイズラリー！
アンケート提出場所
書籍陳列

資料映像視聴
（湖底遺跡・ミニ戦サイズ）

整理作業の体験（注記）

整理作業の体験（接合）

整理作業の体験（拓本）

出土品
レプリカ
制作体験

ま近で見る！

整理作業の公開

ふだんは窓越しでご覧いただいている整理作業。本日は整理室を公開して作業の様子を間近にご覧いただけます。

わたしだけのストラップ！

出土品レプリカ制作体験

縄文時代の「土偶」を題材としたオリジナルストラップが作れます。縄文人の世界や暮らしに思いをはせてください。

◇当日受付・先着80名

◇工芸粘土や絵の具を使います。

◆有料（材料費100円）

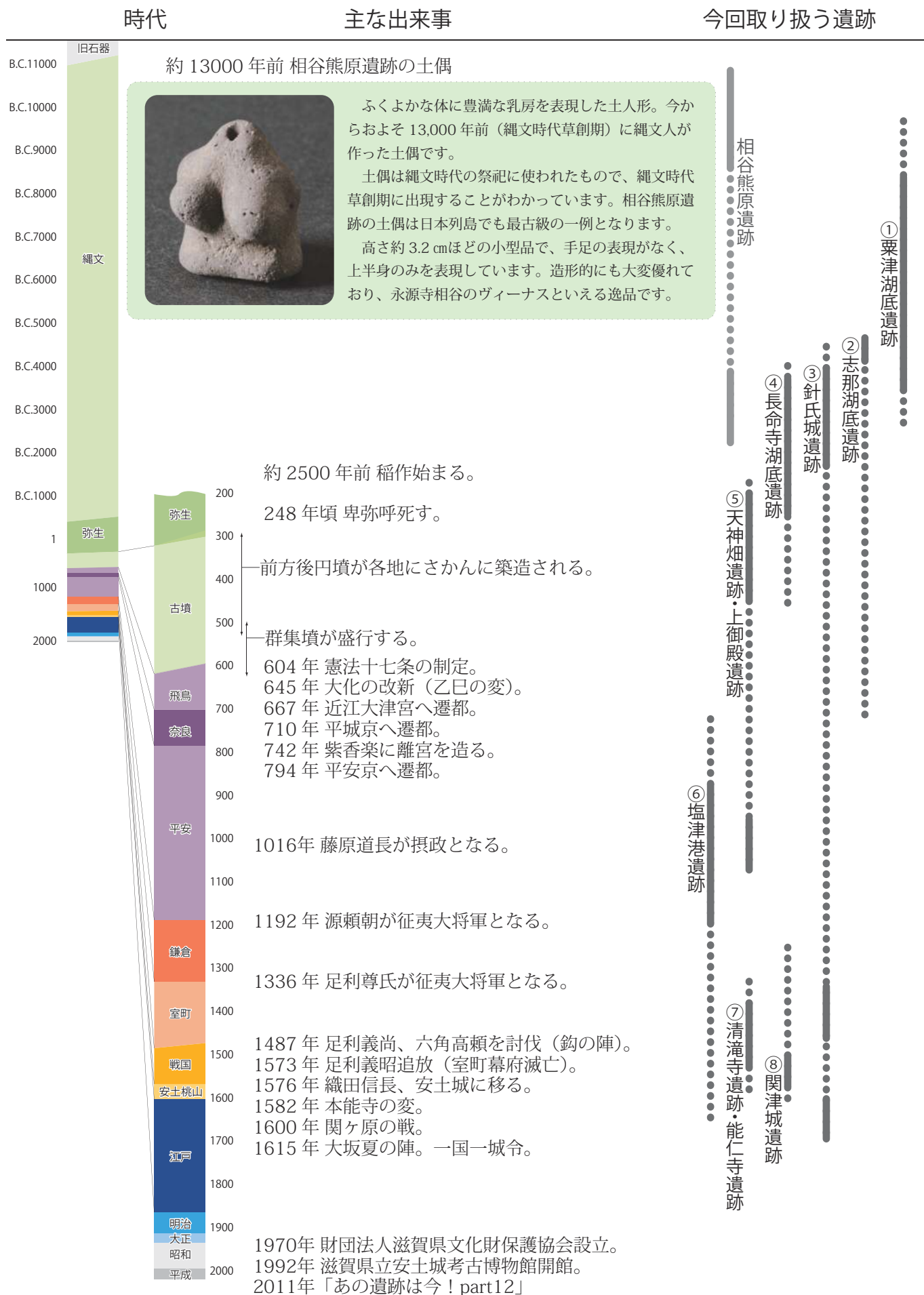
いくつわかるかな？

展示品クイズラリー

展示している遺跡や出土品のクイズに挑戦！クイズを解いていくうちに展示がよりお楽しみいただけます。

正解者にはプレゼントあります！

アンケートのご提出もお忘れなく
m(._.)m



今回取り扱う遺跡の概要

① 粟津湖底遺跡



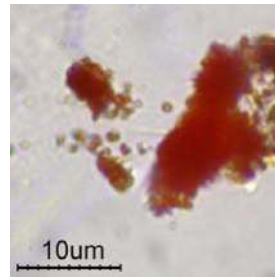
- ・調査年度：昭和62～平成3年度
- ・調査原因：琵琶湖総合開発
- ・概要：琵琶湖の最南端、水深2～3mの湖底にある。縄文時代早期（約10,000年前）の大量の植物体や、縄文時代中期（約5,000年前）の貝塚等が見つかった。貝塚はセタジミを中心としたもので、淡水の貝塚としては日本最大の規模を誇る。

② 志那湖底遺跡



- ・調査年度：昭和56～63年度
- ・調査原因：琵琶湖総合開発
- ・概要：葉山川右岸の平湖内湖浜堤上と湖底に立地。標高82.5mの湖底からは縄文時代晩期の土器棺墓を検出。周辺からは縄文時代前期や弥生時代前期～中期の良好な資料も検出している。

③ 針氏城遺跡



- ・調査年度：平成20・21年度
- ・調査原因：ほ場整備
- ・概要：縄文時代と室町時代の遺構を検出。縄文時代後期後葉～晩期前葉の土器がまとまって出土した。「生駒西麓産」とされる胎土を持つ土器とサヌカイトチップの存在は、生駒山・二上山周辺と交流していたこと、当地で石器を製作していたことを示す。

④ 長命寺湖底遺跡



- ・調査年度：昭和57・58年度
- ・調査原因：琵琶湖総合開発
- ・概要：縄文時代後期から弥生時代にかけての遺物が散布する湖底遺跡である。発掘調査では縄文時代後期の琵琶湖汀線を確認し、丸木舟が出土した。この丸木舟の保存処理は当時県内初の事例であった。

⑤ 天神畑遺跡・上御殿遺跡



- ・調査年度：平成20・21年度
- ・調査原因：青井川改修
- ・概要：弥生時代末の方形周溝墓、平安時代後期の掘立柱建物、平安時代から室町時代の旧流路が見つかった。旧流路には縄文時代から室町時代にかけての遺物が含まれており、なかでも「見せ消ち」が記された柿経是全国初のものである。

⑥ 塩津港遺跡



- ・調査年度：平成18～20年度
- ・調査原因：大川改修
- ・概要：平安時代後期から末期にかけての神社跡がみついている。約50m四方の堀で囲まれ、本殿・拝殿・門・井戸・鳥居などを検出した。堀の中からは起請文木簡や幣串・円座などのほか神像が5体出土した。

⑦ 清滝寺遺跡・能仁寺遺跡



- ・調査年度：平成20・21年度
- ・調査原因：能仁寺川砂防工事
- ・概要：調査地は京極家の菩提寺である清滝寺徳源院の南隣で、平坦地をつくるための大がかりな造成を確認した。平坦地には室町時代後半頃の掘立柱建物・井戸・溝が見つかった。

⑧ 関津城遺跡



- ・調査年度：平成21年度
- ・調査原因：国道422号改築
- ・概要：関津峠と瀬田川に隣接する交通の要衝に位置している。土塁に囲まれた曲輪は3か所あり、虎口には櫓台や門が見つかった。礎石建物や土蔵が見つかり、鎧の一部や銅製装飾品、炭化した穀物などが出土している。

縄文人とご対面

粟津湖底遺跡（大津市晴嵐一丁目）



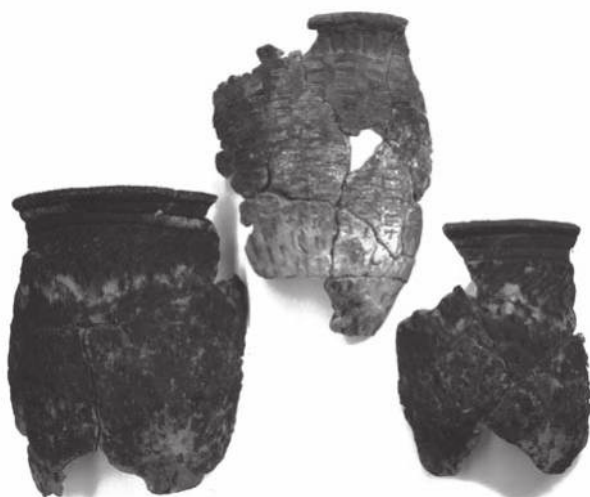
国内最大級の淡水貝塚である粟津湖底遺跡の第3貝塚からは、約4,500年前（縄文時代中期）の縄文人の骨も出土しています。大半は小さな破片ですが、ほぼ完形の頭蓋骨が1個出土しました。頭蓋骨は、頭部にある縫合線の癒着状態や歯の成長度あるいは摩滅度から年齢が、全体的な形状から性別を知ることができます。現地調査の段階では、10代後半の女性と判定され、話題となりました。その後、再度調査したところ、今度は40代の男性との判定が・・・。



出土した頭蓋骨

人骨の専門家による見立てが一致しません。その理由の一つに、歯の磨滅があります。前歯を含め、ほとんどの歯の先端が平らになり、半分ほどにまですり減っています。長年にわたって堅いモノを食べていたとも考えられますが、獣の皮をなめしていたためではないかとも考えられています。

また、粟津湖底遺跡には、大規模な貝塚が築かれる前の縄文時代早期のクリ塚があり、押型文土器が出土しています。押型文土器は、土器の表面を縄文で整えたり、飾ったりするのではなく、文様を刻んだ断面が丸い棒を転がしてスタンプのような文様をつけたものです。土器の表面には、煮炊きの際に付いたお焦げや煤が厚く付着しています。



縄文時代行早期の押型文土器と施文工具（推定復元）



湖底から土器棺墓が出現！

志那湖底遺跡（草津市志那町・志那中町）

草津市志那の湖底と湖岸からは、縄文時代晩期初め（約 3,000 年前頃）のお墓が見つかっています。

このお墓は、地面を掘りくぼめた穴に縄文土器の深鉢を利用して遺体を埋葬するため、土器棺墓と呼ばれています。

長い年月が経っているため土器棺内には骨は残っていません。お棺に使う土器は大きさ 50 cm ほどで、通常 1 個使いますが、2 個を合せ口にして使う場合もあります。

同じ穴に複数個体入れる場合もあります。土器が小さくて大人の遺体は入りませんので、幼児や胎児の遺体を埋葬したり、人骨のみを埋葬したと考えられています。

お墓が見つかった地点は、現在の水面から約 1.5m も低い場所であり、当時の琵琶湖の水位は現在よりも低かったことがわかります。

お墓は湖岸から沖合いまでの約 500m の間の砂州上に作られたものと思われます。隣接する草津市烏丸崎遺跡では半島上に弥生時代の方形周溝墓が 200 基以上作られています。この時代には意識して湖岸にお墓を作る風習があったのかもしれませんが。



調査地全景（対岸に見えるのは比叡山）



湖底から出現した土器棺墓

水銀朱が付着した縄文土器

針氏城遺跡（湖南省針）



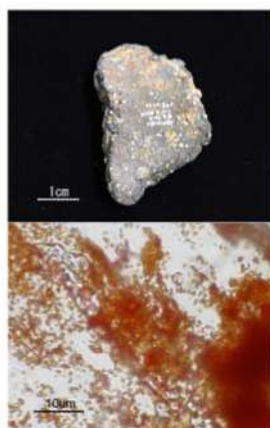
分析No.1 (水銀朱)



分析No.2 (ベンガラ)



分析No.3 (水銀朱)



分析No.4 (水銀朱)

【水銀朱とベンガラ】

水銀朱 辰砂(しんしゃ)を原料とする赤色顔料。辰砂は水銀と硫黄とからなる鉱物であり、深紅色または褐赤色で、塊状・粒状で産出。水銀製造の原料にもなる。漢方では消炎・鎮静薬などに用いる。丹砂、朱砂ともいう。

ベンガラ 酸化鉄(Ⅲ)(酸化第二鉄) Fe_2O_3 天然には赤鉄鉱として産出し、製法によって赤色・紫色・黒色などとなる。現在ではさび止めや塗料、研磨材などに使用。ちなみに、ベンガラ以外の鉄の酸化物は以下のとおり。

酸化鉄(Ⅱ)(酸化第一鉄) FeO 蓼酸鉄(しゅうさんてつ)(Ⅱ)を空気を断って熱すると得られる強磁性の黒色粉末。

四酸化三鉄 Fe_3O_4 天然には磁鉄鉱として産出。黒色、強磁性の物質。また、黒さびの主成分。電極・顔料などに使用。

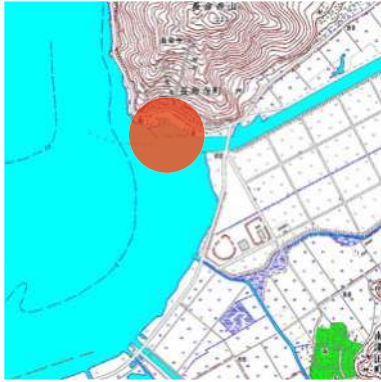
出土した縄文時代後期後葉～晩期初頭の土器に、表面に赤色顔料が付着したものがあります。整理調査では、このうちの4点について科学分析を行いました。

分析の結果、1点のみベンガラ、他の3点は水銀朱であることが判明しました。ベンガラが付着していたのは土器の外面で、水銀朱はいずれも土器内面に残存していたものです。

高島市弘川佃遺跡の整理調査で実施した同様の分析によると、土器の表面を文様で飾る土器では外面に付着する率が高く、文様のない土器では内面に付着している率が高いことがわかっています。つまり、外面に付着する赤色顔料は土器を飾るためのもので、内面の赤色顔料は加工ないし貯蔵の際に付着したと言えるようです。針氏城遺跡の水銀朱も、土器に入れられたものが付着したと考えられます。では、この水銀朱はどこで産出されたものなのでしょう。

同時に出土した土器や石器は、大阪と奈良の府県境である生駒山地西麓や二上山との交流を示しています。

このことから、三重～奈良～和歌山の中央構造線沿いに存在する大和水銀鉱床群が産出地である可能性が高いと考えることができます。



2000年間の縄文人の暮らし

長命寺湖底遺跡 (近江八幡市長命寺町)

長命寺湖底遺跡は、西国巡礼三十一番札所ー長命寺の前にある長命寺港付近の湖底に広がる遺跡です。長命寺港の改修工事が計画され、昭和57・58年度に発掘調査を行いました。発掘調査の結果、遺構は確認されませんでした。遺物を含んだ地層が幾層にも堆積している状況が確認できました。出土した遺物には、縄文時代中期から晩期頃の土器や晩期頃と思われる丸木舟、弥生時代の土器・石器、古墳時代の土師器、古代から中世頃の土器・陶磁器類等が多数出土しました。遺存状態が良好な縄文土器は、中期～晩期にかけてのもので、調査地点周辺に集落の存在が想定されます。

縄文時代の時間幅と
長命寺遺跡の存続時期

13000年前頃
相谷熊原土偶

10000年前

草創期

9000年前～

8000年前

早期

7000年前

長命寺遺跡(縄文時代)の存続時期

6000年前～

前期

5000年前～

中期

4000年前～

後期

3000年前～

晩期

2000年前

弥生時代

古墳時代

飛鳥・奈良時代

平安時代

鎌倉時代

室町時代

安土桃山時代

江戸時代

近現代

縄文時代後期の土器(②～⑤)

この段階の土器は、バケツ状の深い鍋(深鉢:②・③)と浅い鍋(浅鉢:⑤)の2種類から構成されます。それ以外にも、「ヤカン」のような形をした注口土器(④)等もありますが、少数です。

土器の外面上には、②や③のように縄文を施したり、ヘラで直線や曲線を描いたり、貝殻などを表面に押しつけてさまざまな紋様を描き出しています。

このように大変手の込んだ土器(精製土器)がつくれる一方、ほとんど紋様を施さない土器(粗製土器)が多量に出土します。



②



④



⑤



③



①

縄文時代中期の土器(①)
バケツ状の器の口の部分です。

縄文時代晩期の土器(⑥)と丸木舟(⑦)

⑥は浅鉢の破片です。この段階になると、精製と粗製の作り分けが明瞭でなくなり、紋様もほとんどなくなります。



⑥



⑦

新たな古墳が存在したか？ 川跡から埴輪が出土

天神畑・上御殿遺跡(高島市・安曇川町三尾里)



今回ご紹介するのは、高島市の天神畑・上御殿遺跡で出土した埴輪の破片です。

これらはわずか 10 数点と少なく、いずれも破片となって出土しました。埴輪の破片が出土したのは、大きな川跡の中でした。埴輪は、古墳の上やまわりに立て並べるために作られた土製品です。川跡から埴輪の破片が出土したことは、これらの埴輪を立て並べた古墳が近くに存在したことを示しています。埴輪の特徴から、1500 年ほど前、古墳時代中期後半頃に作られたことが分かりました。天神畑・上御殿遺跡一帯は、継体大王出身地の候補の一つです。

わずかな埴輪ですが、継体大王に先立つ時代の様相を知る重要な資料といえます。

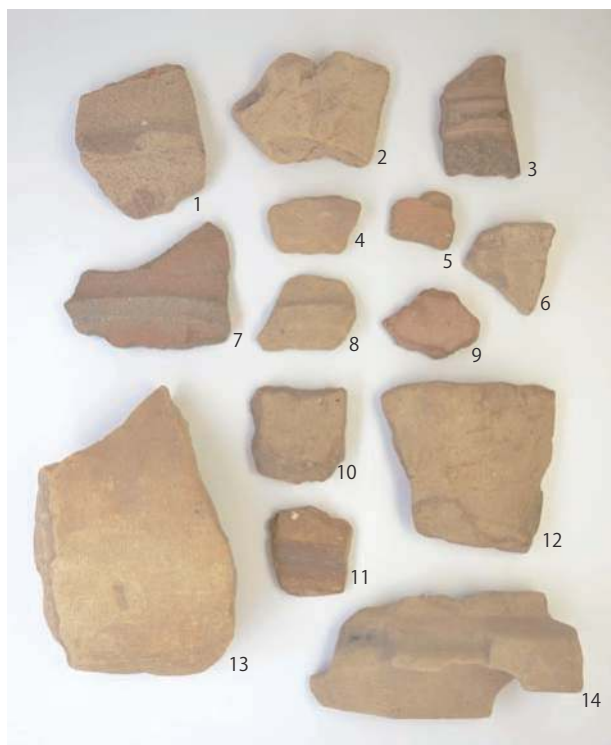
【埴輪とは・・・】

埴輪といえば、人物や馬などの動物のイメージが強いと思います。

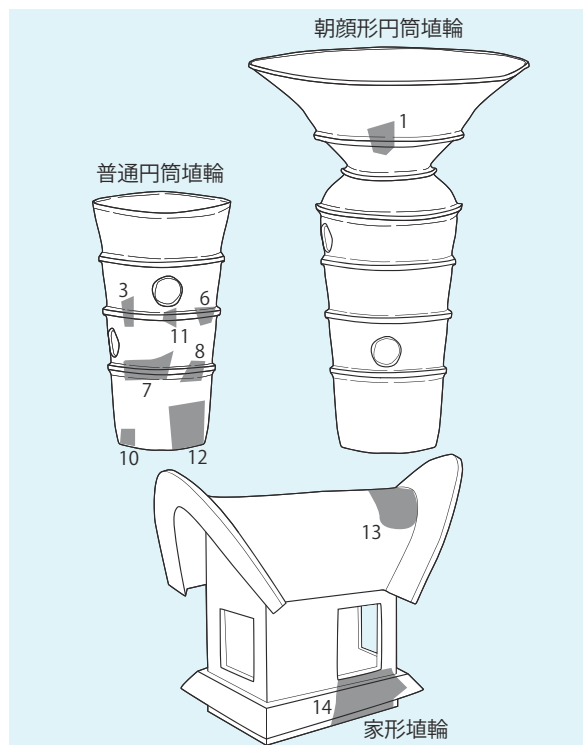
でも、最初に作られ、また最もたくさん作られた埴輪は、土管やラッパのような円筒埴輪(普通円筒埴輪・朝顔形円筒埴輪)でした。

これらは、お墓の主に対してお供えた壺(の中に入れた液体―お酒だという説もあります・・・)とそれを乗せるための台をモデルとしたものです。

古墳のまわりには、何重にも円筒埴輪を列状に立てられていました。

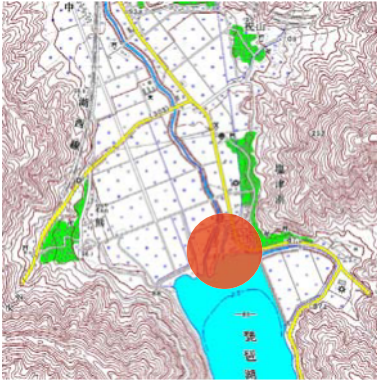


川跡から出土した埴輪の破片



どんな埴輪のどここの部分か？

【註】(1) 3・6～8・11は、朝顔形円筒埴輪か普通円筒埴輪か区別できない。また、何段目になるかも確定できない。ここでは便宜的に普通円筒埴輪で示している。
(2) 2・4・5・9は普通円筒埴輪か朝顔形円筒埴輪の胴体部分の破片である。



雅（みやび）な逸品

塩津港遺跡（長浜市西浅井町塩津浜）

①鳥足形

銅板から前3本、後1本の爪先が作り出されています。甲には蹴彫の技法により皺（しわ）が表現されています。また、部分的に鍍金（メッキ）の痕跡が残っており、当初は金色に輝いていたようです。この足形は、鳥に付属していたもので鳥は鳳凰がふさわしいと考えられます。用途として燭台や香炉が想定できます。



②唐花文鏝（からはなもんかざり）金具

厨子（ずし）や御輿（みこし）のような家具や小建築を飾るためのもので、唐花文（からはなもん）が彫金の技法により作り出されています。

③鶴の丸鏝（かざり）金具

銅板に鶴が文様化されて彫刻されています。鶴は古代から霊鳥として尊ばれ、亀とともに長寿のしるしとされ、めでたい動物といわれてきました。鶴は古くから家紋に使用され、翼を広げた鶴を円形に図案化した「鶴の丸」が一般的です。

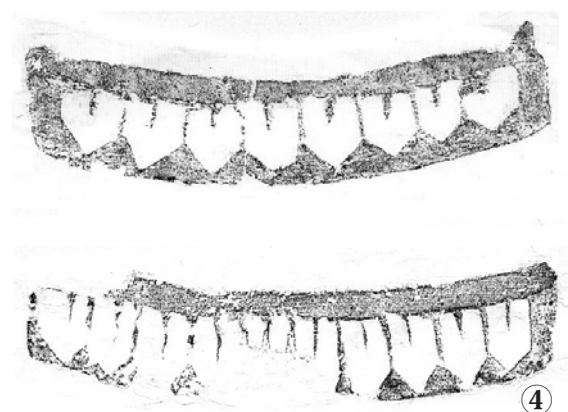
家紋の起源は古く、平安時代後期に公家や武家が一族のシンボルとして使用しはじめました。家紋では丸に鶴は頭を左に向けていますが、この塩津港遺跡から出土した金具では右向きとなっています。家紋のルーツではないでしょうか。



④剣頭紋軒平瓦

比較的小型の屋根瓦として、巴紋軒丸瓦と剣頭紋軒平瓦が出土しています。このなかで剣頭紋軒平瓦は、大津市浮御堂遺跡からも出土しています。

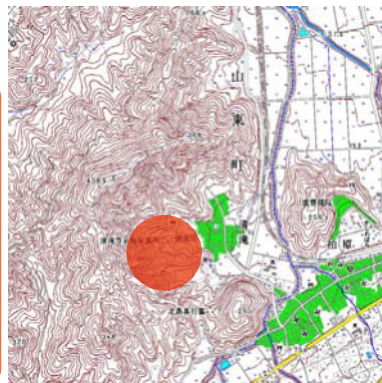
また、県外では、京都市東寺（教王護国寺）旧境内や門真市普賢寺（ふげんじ）遺跡の平安時代後期の遺構から出土しています。さらに当時の都から遠く離れた、茨城県つくば市日向廃寺からも出土しています。



香を薫き、香を聞く!?

—京極家菩提寺の日々の1コマ—

清滝寺遺跡・能仁寺遺跡(米原市清滝)



見つかった遺物には、鍋や釜などの日常雑器がほとんどなく、中国から輸入された陶磁器をはじめ、装飾品や蔵骨器としても用いられ権威を示す性格を持つ壺、酒を入れる瓶子(へいし)、香炉、火鉢、素焼きの皿、硯(すずり)、茶臼、建築部材としての瓦や釘などがあります。一般的なムラのものとは比べて個性的で、京極氏の菩提寺の様子をあらわすものとなっています。今回はこのうちの香炉を取り上げてみましょう。

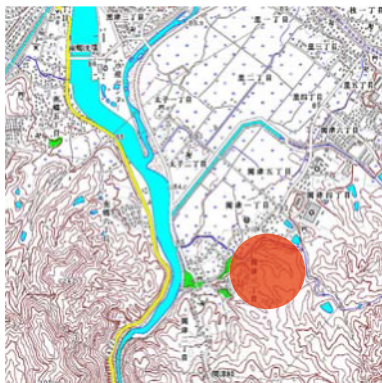
香炉は香を薫(た)く器です。香は現代では、仏事での線香、ヒーリング(癒し)や移り香を楽しむためのお香など、“薫く”ことが一般的でしょうか。

このほかに、香を“聞く”たのしみ「聞香(もんこう)」もあります。一定の作法に基づいて、香を薫き香りを当てるなどしてたのしむ現代のような聞香は、室町時代足利義政の頃生まれたとされています。平安時代には衣服や調度に薫きしめる空薫物(そらたきもの)や香合わせが貴族の間でたしなまれました。鎌倉時代以降は政権を担うようになった武士の間に広まっていきます。

さて、見つかった香炉は現代の寺院で見ることのできる大きなものではなく、仏事にも、香りをたのしむことにも用いることができる、小ぶりのものでした。どんな様子で使われていたか、どんな香りがしていたのか、“聞いて”みたいものです。



瀬戸香炉



ぶんぶく茶釜？

関津城遺跡（大津市関津三丁目）



瀬戸天目茶碗



朝鮮王朝陶磁

室町時代以降の遺跡の調査では、黒い釉薬が施された「天目茶碗」をよく見かけます。また、朝鮮や中国からの輸入陶磁器も出土します。さらに「水差」や「花入」、「茶臼」なども出土することから、「茶のたしなみ」が当時には広まっていたことがわかってきました。

関津城遺跡の調査でも、天目茶碗や茶臼が出土していますが、今回ご紹介するのは素焼の「釜」です。破片をつなぎ合わせたところ、下写真のような形になりました。出土品としてはあまり見かけませんが、でも見覚えのあるかたち。調べてみると茶道具の釜に同じような形のものがあることがわかりました。

茶釜と言えばぶんぶく茶釜。なんとなく見覚えがあったのは、絵本に描かれているタヌキの化けた茶釜のイメージが残っていたからかもしれません。



土師質釜

展示のご案内



～ 平成 22 年度テーマ展 ～

■ 織田信長と浅井長政—『お江』をめぐる人々— ■

◆会期：平成 23 年 3 月 27 日（日）まで ◆会場：第 2 常設展示室



◆主な展示資料

（□は県指定文化財、△は市指定文化財）

浅井長政画像複製 / 復元模写

浅井長政夫人（お市の方）画像複製

△織田信長画像（惣見寺蔵）

織田信長画像（浄厳院蔵）

豊臣秀吉画像復元模写

織田信長黒印状—赤松弥三郎宛—

浅井長政書状

□柴田勝家書下（長命寺蔵）

近江国蒲生郡安土古城図（個人蔵）

革袴復元品：浅井長政に背かれた信長が越前から逃れる際に山中を案内した人物に贈ったと言われる革袴。

惣見寺由緒書：お江が惣見寺の修復を命じた（惣見寺蔵）ことが書かれています。

安土記：信長の生涯を記した伝記。

織田軍記：小谷城落城後、お江たちが叔父の織田信包に預けられたことが書かれています。

絵本太閤記：お市の浅井長政への興入れなどが書かれています。

◆関連行事：NHK大河ドラマ「江～姫たちの戦国～」着用衣装等の特別展示

「江～姫たちの戦国～」で着用された「織田信長」や「市」、「お江」等の衣装やパネル等を特別展示しています。是非ご観覧下さい。



◆休館日：月曜日（月曜日が祝日の場合は翌日） ◆入館料：大人 450 円（360 円）・高大生 250 円（200 円） ■小中生・障害者・県内在住の 65 歳以上の者は無料
*（ ）内は 20 名以上の団体料金です。 信長の館との共通券もあります



～ JR 湖西線大津京駅構内展示 ～

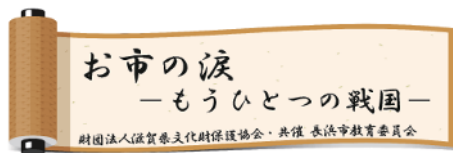
■ 駅からはじまる 近江戦国絵巻 ■



大津京駅コンコースでは、長浜市教育委員会との共催で、お市の方に関する展示を行っています。

お市の方は、織田信長の妹で、戦国一の美女と伝わる人です。夫である小谷城主浅井長政は、急速に頭角を現した若き戦国大名でした。

天下統一を目指す信長にとって近江を抑えることが不可欠であり、このための同盟者として選ばれたのが長政です。織田・浅井の同盟の証として、お市の方は小谷城に興入れしました。



（イラスト：早田まな）

◆当展示は改札内のため入場券（大人 160 円・小人 80 円）が必要です。

埋蔵文化財整理調査成果報告会

あの遺跡は今! part12

平成 23 年 2 月 20 日
財団法人滋賀県文化財保護協会

私たちは文化財をとおして
ゆたかな郷土づくりに貢献します。

